

はじめに

人口減少社会の到来に加え世帯構造や社会環境の変化などにより、都市部では高齢者の孤食や貧困状態にある子供への食事提供といった「食」に関する課題が昨今取りざたされていますが、地域における「食でつながる人々の環」はまだまだ様々な場面で見受けられ、住民同士で食事をとるコミュニケーションや豊かな食事体験などの供食は、新たなコミュニティや交流の機会を生み出しています。

以前、縁もゆかりもない愛南町に単身で移住し、地域おこし協力隊として町の特産品開発に一人から取り組んできた方とお話する機会がありました。彼女は、自身が試作した料理をイベントなどで提供する度に、地元の人をはじめ様々な方から、「この前食べた料理、おいしかったよ」、「今度はいつ食べられるの」などと声をかけられたそうで、「作るのは大変だけどね。」などと言いつつも、楽しそうな表情を見せてくれました。「食」を通して地域に溶け込むことができたお一人なのでしょうね。

もちろん、私自身も食えることが好きです。それは、私のふるさとである愛南町が海の幸、山の幸共に豊かなこと、そして、地元の行事で食べた様々な郷土料理も楽しい思い出のひとつとして私の中に残っているからだと思います。

また、近年のEコマースの普及やSNSによる情報発信などにより、「食」は地域内における“人とのつながり”のみならず、地域外の“人とのつながり”を生み出す有効なツールとして広く活用され始めました。

例えばオンラインショップやふるさと納税などでは離れた地域の農水産品や加工品を手に入れることができ、また、今まで知らなかった地域の食の魅力を知ることでそれを目的に旅行先を決めるきっかけとなる、このような流れは県外や海外からの交流人口や関係人口を創出して地域の活気や賑わいを取り戻すことにもつながります。

今号は、「食でつながる人とまち ～地域の特産品を生かした賑わいづくり～」をテーマに、「食」にこだわった地域づくりの取り組みについて、県内外の様々な事例を紹介します。

全国各地では、地域の歴史や風習を反映した郷土料理や海山里の豊かな自然がもたらす農林水産品や加工品などに付加価値を付けてブランド化し、積極的にプロモーションを行うことで地域の賑わいづくりを図っています。また、過疎に悩む地域で住民が一丸となって新たな特産品の開発に取り組む例も見られます。ちなみに愛南町では、海に関わる地域資源の価値や魅力を活用する「海業(うみぎょう)」を切り口に、愛南町の食、文化、おもてなしなどを堪能できるランニングイベント「愛南マラニック」や、愛南町の旬の特産品や観光などを満喫するスタンプラリーイベント「愛南町盛旬満喫スタンプラリー」など、地域活性化に取り組んでいるところです。

人口減少が進む中で、食を切り口とした地域経済の活性化がますます進み、“食でつながる人々の環”が皆さんの地域で広がるきっかけ作りとなれば幸いです。

(アドバイザー 池田 桃子)



■はじめに	1
池田 桃子/アドバイザー	
●アングル	2
『食の魅力伝えるために』デジタル社会における食と地域のPR	
松本 純子/農林水産省職員・フードアナリスト	
●特集/食でつながる人とまち～地域の特産品を生かした賑わいづくり～	
①にっぽんの田舎を元気にするために	5
寺本 英仁/株式会社ローカルガバナンス 代表取締役	
②「森を育てて、お菓子を創る」(林商連携事業)	8
町田 啓介/お菓子な郷推進協議会 会長	
③『青いレモン』で島おこし	10
大本 孝則/株式会社いわぎ物産センター センター長	
④移住と発酵	12
大谷 リエ/かあちゃん工房 代表	
⑤新「海の恵みが人を繋ぐ」	14
清家 裕二/企業組合こもねつと 事務局長	
●地域とつながり地域に学ぶ～愛媛大学社会共創学部だより～	16
一緒に作り、同じ釜の飯を食う～文化の壁を越えて仲良くなる必勝法～	
橋本 舞/愛媛大学社会共創学部地域資源マネジメント学科農山漁村マネジメントコース3年生	
●地域おこし協力隊 リレーレポート	18
「食べてるだけで褒めてもらえる、食と人情の町、愛南町」	
大西 梓沙/愛南町地域おこし協力隊	
●えひめ暮らしネットワーク通信	20
えひめ暮らしネットワーク通信(R6.11)	
藤岡 慶太/えひめ暮らしネットワーク 参事	
●特選ブログ/shin1さんの日記	22
食でつながる人とまち～地域の特産品を生かした賑わいづくり～	
若松 進一/人間牧場主・年輪塾長	
●“MY TOWN” うおっちゃんぐ	24
県内一“看板建築”の多い町(八幡浜市)	
岡崎 直司/タウンツーリズム講座主宰・近代化遺産活用アドバイザー	
●令和5年度地域づくり活動アシスト事業報告	
「海岸線憩いのフオスポット事業」での成果	26
中野 珠里/双海町ジュニアリーダー会 代表	
ボランティアでつなぐおばちゃんパワー	27
平井 富子/草ほぎボランティア「いきがい」 代表	
「ミモザ」で驚きの集客～1日に4000人以上が来るとどうなるか～	28
逢沢 亜月/イヨミモザまつり実行委員会 委員長	
●Information センターからのお知らせ	29
元気な集落づくり応援団 活動紹介	
えひめ地域活力創造センター	



【写真】愛南町役場商工観光課

■表紙のことは

今も昔もひとつの皿から食べ物を分け合い、皆で食べる時間は格別なものです。

皆さんは、大勢で集まって食べた料理の思い出は何ですか？

今号の表紙は、「ハレの日」の食事風景です。

お祭りなどの「ハレの日」には、地域の人が集まり、皆でテーブルを囲みます。テーブルの上には「鉢盛料理」。愛媛県南予地域で見られる郷土料理です。愛媛県愛南町では、「盛り込み」とも言い、「ハレの日」には欠かせない料理です。

大皿や大鉢には、姿寿司や巻き寿司、海老や貝類、から揚げや爆弾揚げ(ゆで卵をすり身で包み揚げたもの)、ケーキや果物などが彩りよく盛りられています。

お酒やジュースも振舞われ、集まった人たちは、どれから食べようか迷いながら大皿から自分のお皿に取り分けます。どのテーブルからも楽しそうな話し声や笑い声が聞こえてきます。

最近では、なかなか見ることのできない食事風景ですが、いつまでも残り続けてほしいですね。

柳原 あや子